

2019年（令和元年） 8月30日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所（一財）日本エネルギー経済研究所  
石油情報センター電話（03）3534-7411（代）  
FAX（03）3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階  
ホームページ <https://oil-info.iecej.or.jp>

## ■ 概況

8/8~8/21のNYMEX・WTIは、52.54~57.10ドルの範囲で推移した。

8月22日は、米ワイオミング州ジャクソンホールでは金融経済シンポジウムが開催、翌日のパウエル連邦準備制度理事会議長の前、金融政策に対する不透明感から、続落した。10月限終値は前日比0.33ドル安の55.35ドル。

週末23日は、中国が米国の第4弾制裁関税への報復関税を発表、米中摩擦の激化の懸念から3日続落した。なお、ペーカーヒューズ社発表によると、米国の稼働石油掘削機は、754基で前週比16基減、2週ぶりの減少。10月限終値は前日比1.18ドル安の54.17ドル。

週明け26日は、米中協議再開の報道で一時的に優勢となったが、仏ピアリッツG7サミット終了後のマクロン大統領の米イラン首脳会議開催の可能性発言でイランをめぐる緊張が緩和し、4営業日続落した。9月限終値は前週末比0.53ドル安の53.64ドル。

27日は、トランプ米大統領は、中国から貿易協議再開の申し入れがあり、中国も合意を望んでいると発言、米中摩擦の過度の警戒感が後退したことから、5営業日ぶりに反発した。10月限最終値は前日比1.29ドル高の54.93ドル。

28日は、米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、原油が前週比1,110万バレル減と市場予想を大きく上回る2週連続の取り崩しだったこと、加えて、前日のOPECプラスの減産遵守率が7月159%に達したとの報道が好感され、続伸した。10月限の終値は前日比0.85ドル高の55.78ドル。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(10月渡し)は8月8日~21日の間56.90~59.80ドルの範囲で推

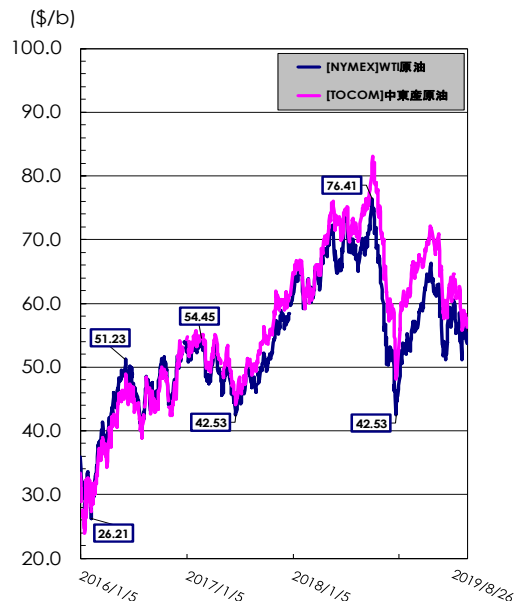
移した。8月22日60.00ドル、23日59.80ドル、26日58.50ドル、27日58.30ドル、28日59.30ドルで推移した。

為替は8月8日~21日の間105.43~106.65円の範囲で推移した。8月22日106.62円、23日106.66円、26日105.08円、27日105.83円、28日105.73円で推移した。

財務省が8月29日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、8月上旬の原油輸入平均CIF価格は、45,533円/klで、前旬比604円高、ドル建てでは66.97ドルで前旬比1.00ドル高。為替レートは1ドル/108.09円だった。

そのような中で、8月26日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.9円の値下がり、軽油は同0.8円の値下がり、灯油は同8円の値下がり(18%ベース)だった。ガソリンは5週連続の値下がり、軽油は4週連続の値下がり、灯油は3週連続の値下がりだった。この週(8月第4週)の原油コストは値上がりし、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに、全社0.5円~1.0円の値上げに分かれた。

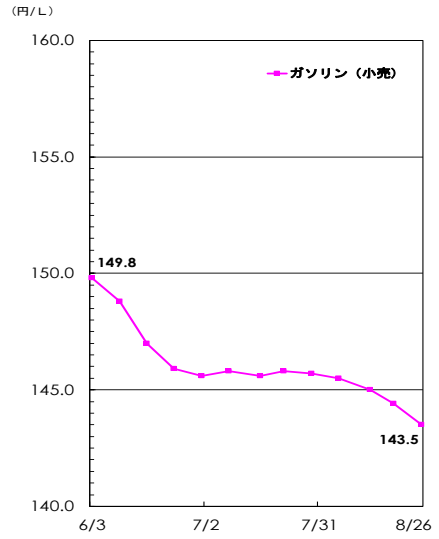
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	8/18 ~ 8/24	3,409 ▼ -113	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	87.1 ▼ -2.8	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	8/24	12,798 ▲ 350	▲ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	8/26	56.26 ▼ -1.09	▼ -17.3
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	8/26	53.64 ▼ -2.57	▼ -15.2
	原油CIF単価 (\$/bbl)	8月上旬	66.97 ▲ 1.00	▼ -9.99
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	45,533 ▲ 604	▼ -8,357
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	108.09 ▲ 0.20	▲ 3.24
	外国為替TTSレート (¥/\$)	8/26	106.08 ▲ 1.33	▲ 6.12



(単位：千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	8/18 ~ 8/24	1,045 ▲ 53	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	908 ▼ -145	▼ -	
	輸出	"	59 ▲ 58	▲ -	
	在庫	8/24	1,495 ▲ 78	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	8/20 ~ 8/26	55.5 ▲ 0.1	▼ -11.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	8/20 ~ 8/26	51.5 ▼ -1.5	▼ -13.0
		(TOCOM/中部)	8/26	53.5 ▼ -0.3	▼ -11.8
	小売 [週動向] (資工庁公表)	8/26	143.5 ▼ -0.9	▼ -8.3	

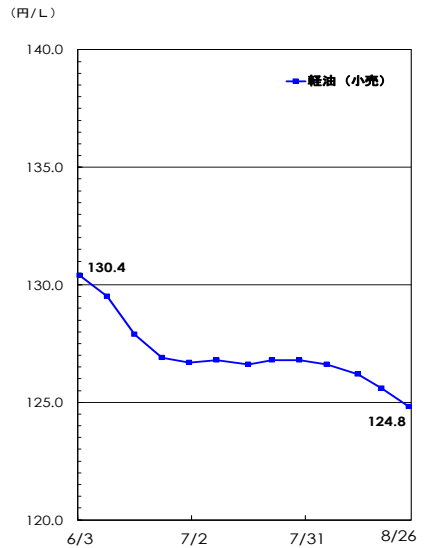
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位：千kl、円/%)

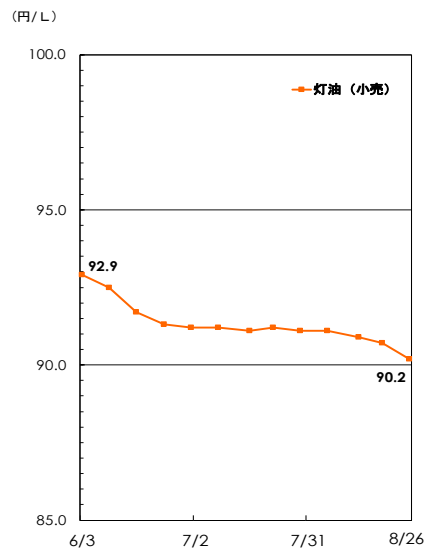
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	8/18 ~ 8/24	917 ▲ 224	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	726 ▲ 424	▲ -	
	輸出	"	275 ▲ 175	▲ -	
	在庫	8/24	1,705 ▼ -84	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	8/20 ~ 8/26	58.0 ▼ -0.5	▼ -9.2	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	8/20 ~ 8/26	60.0 ▼ -1.6	▼ -8.1
		(TOCOM/中部)	8/26	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	8/26	124.8 ▼ -0.8	▼ -5.7	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位：千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	8/18 ~ 8/24	170 ▼ -12	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	126 ▲ 106	▲ -	
	輸出	"	0 → 0	▼ -	
	在庫	8/24	2,257 ▲ 44	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	8/20 ~ 8/26	57.5 ▲ 0.3	▼ -8.8	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	8/20 ~ 8/26	55.1 ▲ 0.4	▼ -12.4
		(TOCOM/中部)	8/26	56.0 ▼ -0.5	▼ -13.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	8/26	90.2 ▼ -0.5	▼ -2.7	



■ 関連情報

1 海外/原油

8月28日のNYMEX市場WTI原油は、米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、原油が前週比1,110万バレル減と市場予想(同210万バレル減)を大きく上回る2週連続の取り崩し、ガソリンと中間留分もそろって210万減と市場予想を上回る減少を示したことで、米国の供給過剰感が後退し、続伸した。加えて、前日のOPECプラスの減産遵守率が7月159%に達したとの報道も好感された。10月限の終値は前日比0.85ドル高の55.78ドル、11月限の終値は前日比0.83ドル高の55.60ドル。

EIAによると、8月26日時点のガソリンの小売価格は、前週比2.4セント値下がりの1ガロン2.574ドル(72.0円/ℓ)、ディーゼルは同1.1セント値下がりの2.983ドル(83.5円/ℓ)となった。ガソリンは6週連続の値下がり、ディーゼルは7週連続の値下がりだった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2019年8月18日～8月24日に休止したトッパー能力は5.7万バレル/日で、前週に対して5.7万バレル/日増加した(全処理能力は351.9万バレル/日)。原油処理量は340.9万klと、前週に比べ11.3万kl減少。前年に対しては27.8万klの減少。トッパー稼働率は87.1%と前週に対して2.8ポイントの減少、前年に対しては7.1ポイントの減少となった。

生産は前週に比べて灯油が減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/5.4%増、ジェット/2.7%増、灯油/6.7%減、軽油/32.3%増、A重油/73.0%増、C重油/12.6%増。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比0.0万kl減)。軽油の輸出は27.5万kl(前週比17.5万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比ではガソリン、ジェットが減少となり、その他の油種で増加となった。前年比ではガソリン、ジェットが減少となり、その他の油種で増加となった。ガソリンの出荷は90.8万kl(対前週13.8%減)と4週振りに減少となり、3週振りに100万klを下回った。ジェット7.1万kl(対前週32.0%減)、灯油12.6万kl(対前週523.8%増)、軽油72.6万kl(対前週140.4%増)、A重油20.6万kl(対前週

98.3%増)、C重油19.8万kl(対前週57.4%増)。

(単位:千kl)

	今週 (8/18 ~ 8/24)	前週 (8/11 ~ 8/17)	前週比
ガソリン	908	1,053	▼ -145 (-14%)
ジェット燃料	71	104	▼ -33 (-32%)
灯油	126	20	▲ 106 (530%)
軽油	726	302	▲ 424 (140%)
A重油	206	104	▲ 102 (98%)
C重油	198	126	▲ 72 (57%)
合計	2,235	1,709	▲ 526 (31%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

8月24日時点の在庫は、ガソリン、灯油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対しては、灯油、軽油で積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは149.5万kl、前週差7.8万kl増。前年に対しては5.9万kl少ない。

灯油は225.7万kl、前週差4.4万kl増。前年に対しては13.6万kl多い。

軽油は170.5万kl、前週差8.4万kl減。前年に対しては6.3万kl多い。

A重油は69.4万kl、前週差2.3万kl減。前年に対しては7.9万kl少ない。

C重油は187.0万kl、前週差10.5万kl減。前年に対しては16.6万kl少ない。

(単位:千kl)

	今週 (8/24)	前週 (8/17)	前週比
ガソリン	1,495	1,417	▲ 78 (6%)
ジェット燃料	914	983	▼ -69 (-7%)
灯油	2,257	2,213	▲ 44 (2%)
軽油	1,705	1,789	▼ -84 (-5%)
A重油	694	717	▼ -23 (-3%)
C重油	1,870	1,975	▼ -105 (-5%)
合計	8,935	9,094	▼ -159 (-1.7%)

### 3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

8月20日～26日の原油価格は、前週比で値上がりし、為替レートもやや円安で、原油コストは値上がりしたものと見られる。

陸上スポット価格は、8月20日～26日の間、ガソリン109円台で値上がり、軽油57～58円台でわずかに値上がり、灯油57円台で値上がりして推移した。

海上スポット価格は、同期間で、ガソリン110～111円台で値上がり、軽油59～60円台で出入り後値下がり、灯油52

～53円台で横ばい後値下がりして推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン103～107円台で激しく値下がり、軽油59～60円台で値下がり、灯油54～55円台で値上がり後大きく値下がりして推移した。

次週の元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、全社0.5円～1.0円の値上げに分かれた。

### 3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

8月20日～26日の製品スポット市況は、8月13日～19日平均と比べ、軽油は全取引で値下がり、灯油は全取引で値上がり、ガソリンは取引で割れた。

直近の陸上スポット価格(8/20～8/26千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、前週比で、ガソリンは0.1円の値上がり、灯油は0.3円の値上がり、軽油は0.5円の値下がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、前週比で、ガソリンは横ばい、灯油は0.3円の値上がり、軽油は0.9円の値下がりだった。

先物価格は、前週比で、ガソリンが1.5円の値下がり、灯油は0.4円の値上がり、軽油は1.6円の値下がりだった。

9月第1週の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社0.5円～1.0円の値上げに分かれた。

(RIM) (単位: 円/%)

[陸上ローリー4地区平均]	今週 (8/20～8/26)	前週 (8/13～8/19)	前週比
レギュラー	55.5	55.4	▲ 0.1
灯油	57.5	57.2	▲ 0.3
軽油	58.0	58.5	▼ -0.5

(TOCOM) (単位: 円/%)

[期近物/終値] [平均]	今週 (8/20～8/26)	前週 (8/13～8/19)	前週比
レギュラー	51.5	53.0	▼ -1.5
灯油	55.1	54.7	▲ 0.4
軽油	60.0	61.6	▼ -1.6

※上記価格は税抜き価格

参考値 (8/20～8/26実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 0.1	▼ -1.5	▼ -0.7
灯油	▲ 0.3	▲ 0.4	▲ 0.3
軽油	▼ -0.5	▼ -1.6	▼ -1.1
A重油	▼ -0.2		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

### 4 国内/製品小売価格

8月26日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.9円安の143.5円、軽油も同0.8円安の124.8円、灯油は18%ベースで同8円安の1,624円(1%ベースでは同0.5円安の90.2円)。ガソリンは5週連続の値下がり、軽油は4週連続の値下がり、灯油は3週連続の値下がり。都道府県別には、値上がりが2県、横ばいが該当なし、値下がりが45都道府県。全国最安値は埼玉県の137.5円(前週比1.5円安)、その次は、滋賀県の137.7円(同1.4円安)、最高値は長崎県の155.4円(同1.2円安)。最も値上がりしたのは0.3円高の大分県(151.8円)と福島県(145.7円)、最も値下がりしたのは2.6円安の鳥取県(139.6円)。

先週の原油コストは値上がりし、今週適用の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社0.5円の値上げとなった。今週は、原油価格は値上がりし、為替レートはわずかに円安で、原油コストは値上がりした。次週適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社0.5円～1.0円の値上げに分かれた。次週(9月2日)のガソリンの小売価格は、小幅な値上がりが予想される。

(単位: 円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (8/26)	前週 (8/19)	前週比	直近高値
レギュラー	143.5	144.4	▼ -0.9	08/8/4 185.1
灯油	90.2	90.7	▼ -0.5	08/8/11 132.1
軽油	124.8	125.6	▼ -0.8	08/8/4 167.4

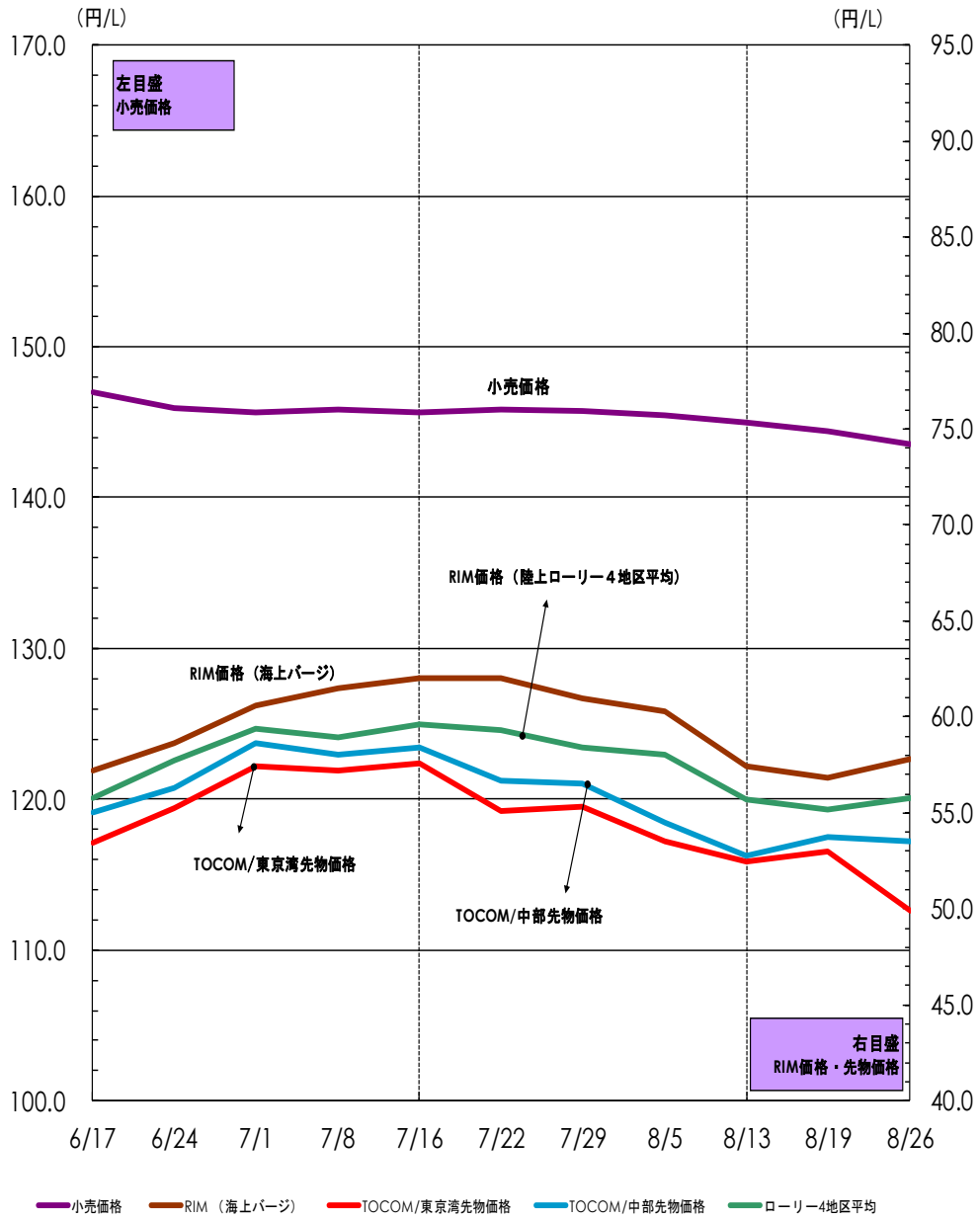
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

# ガソリン価格推移

(2019/6/17 ~ 2019/8/26)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格  
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。  
次回(2019第21号)の公表は、9/6(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成31年3月末現在)は、7月31日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

#### ④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

#### ⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

#### ⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPに掲載)。